

第5回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会議事録

- 1 会議名 第5回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会議事録
- 2 開催日時 平成28年2月16日(火) 午後2時～午後4時20分
- 3 開催場所 小淵沢総合支所2階研修室
- 4 出席者(敬称略)
出席者
茅野 光一郎、小林 健展、小林 千鶴子、草野 香壽恵、鈴木 正吉、小林 伸一、
卯月 盛夫
欠席者
坂本 興一、高田 一彦、清水 純子、氏原 宏幸、久保 秀博
事務局
神宮司 浩建設部長、高橋 一成小淵沢総合支所長、坂本 孝典まちづくり推進課長、
景観まちづくり担当リーダー植松 宏夫、田中 勇
東京芸術大学
北川原 温、松田 和久、学生4名
観光・商工課
土屋 直己、有賀 翼、齋藤 ゆか
会議録署名委員
小林 健展、鈴木 正吉
- 5 議題
 - ①開会
 - ②あいさつ
 - ③議題
 - ・地域活性化の先進地事例の紹介
 - ・ワークショップ(親子体験工作 in ほくと)の実施報告
 - ・その他
 - ④閉会
- 6 公開・非公開の別
公開
- 7 傍聴人の数
4人
- 8 審議内容
 - ① 議事
 - ・ 地域活性化の先進地事例として、卯月会長より「新潟県村上市」の事例及び東京

芸術大学の学生より「フランスのナント市」の事例について紹介していただく。

(会 長)

2つの事例の紹介を受けて、各委員より意見又は質疑があれば発言をいただきたい。また本日は観光・商工課からも出席していただいているので、委員以外の方からの意見もいただきたい。

(委 員)

ナント市の事例を聞き、何か特徴がなければ広がらないということを感じた。後半の文化的な事柄について、この辺りでは何が特徴となるのだろうと考えると、一つは芸術関係であり、日本中でも北杜市は多くの美術館がある地域であると先生方の意見から改めて感じた。この芸術関係という点が、地域の大きな特徴であると思う。

またもう一つの特徴としては、昨年であるが北杜市と富士見町と原村で定住自立圏を作った。特に小淵沢は県境となっており、この八ヶ岳県域が県境をまたいで観光の事業を行うということで、昨日もニュースで放送されていたが非常に注目されている。今まで行政は県境から1歩出て事業を行うことが出来なかったが、その境を広げて県が違ってもそのような圏域で事業を進めようということが今後うまくいけば、全国でも珍しいケースとなるのではないかと思うので、この点も特徴になるのではないかと思った。

最後にもう一つ先ほどの発表の中では、北杜市で360万人の観光客があるとのことだが、景観にも特徴があり、考えてみると他に無い良い魅力があるのではないかと思う。案外住んでいる人では気づかない、外から来た方の意見を聴いたりすることによって何か気づくことがあるのではないかと感じた。

(会 長)

お話されたとおりであると思う。自立圏は以前から出ている内容であるが、何か自立圏の組織などが北杜市又は駅周辺の中で、何か仕掛けていこうという構想はあるのか。またはこれから検討していくのか。

(委 員)

観光・商工課から説明をいただきたいのだが、少し話をさせていただくと、交通関係については、山梨県側のバスは北杜市の県境まで来るとまた戻り、長野県側のバスも同じく県境に来ると戻るという繋がりが無い状況となっている。今後時間が少しかかると思うが、県をまたいで往来ができる状況になると思う。

また既にお互いの公共施設を使用するということから、図書館の本がお互いに借りられるということや、温泉もそうなるのではないのかと思っている。観光圏については、観光・商工課の方に説明をお願いしたい。

(観光・商工課)

観光圏について説明をさせていただくと、お話があったとおり自立圏では交通

や図書館に関して進んでおり、観光圏事業としては平成21年に観光圏の整備計画に関する法律が施行された。それに伴い隣接する富士見町、原村と八ヶ岳観光圏という県境を越えた全国でも珍しい観光ブランドを作るエリアとしている。今現在、富士見町及び原村と連携を行い民間のホテルや観光施設をメインにこのエリアを一体としてアピールしていこうと活動している。その中には観光の視点からの2次交通、同一したプロモーション展開を意識して活動している。しかしこのエリアは県境だけではなく、国交省の関東運輸局と上越運輸局の管理地域の境にもなっている。インバウンドを考慮し世界にも売り込んでいこうとする中で、観光庁の予算を利用すると関東運輸局は富士山周辺を、上越運輸局では北陸新幹線をとということであり、国との連携も非常に難しい状況ではあるが、三市町村が連携して、今週末は八王子駅でキャンペーンを実施したりと地道な活動ではあるが民間とも協働して活動している。

(会 長)

自立圏全体のことは若干分かったのだが、この協議会で議論するのを踏まえて自立圏全体の整備計画の中でこの小淵沢の駅や駅周辺はどのように位置づけられているのかということをお聞きしたい。

(観光・商工課)

小淵沢駅はあずさが停車するということが、観光的にも中心的な位置づけとなっている。車での拠点として、道の駅こぶちさわに観光圏の観光案内所を昨年度整備した。このことから、観光圏の中で小淵沢は中心的な位置づけとなっている。小淵沢駅からサントリーの送迎バス等があったり、更には富士見町の鉢巻リゾートバスについても小淵沢駅から発着している状況である。

(会 長)

交通の結節点であるということは分かるが、ではそこで乗り換えて自立圏の他市町村へ行ってしまっても良く、小淵沢駅周辺の徒歩圏の主に商店街の位置づけというのは観光としてないのか。例えば交通結節点だから散策してもらうのか、すぐに他市町村へ移動してもらうのかによってだいぶ違うと思うので、そのあたりの説明をお願いしたい。

(観光・商工課)

具体的に観光施策として、小淵沢のここを散策して下さいというような事業の計画はないが、当然小淵沢駅及び道の駅を利用することから観光客が小淵沢を散策するのか、すぐに他市町村へ移動するのかについてはいろいろな可能性があるため、一概に判断することができない。

(会 長)

意地悪な質問で申し訳ない。確認という意味で質問させていただいた。ありがとうございました。

(委 員)

参考までに、この建物に支所が移動してきたが、支所の跡地を駐車場にしているその理由の一つには、圏域から来て小淵沢から特急電車に乗る際に駐車場がなかったため、自由に止められるように考えられたものである。

(会 長)

委員の方全員に感想なり意見を伺いたい。

(委 員)

小淵沢に住んでいないので分からないが、新潟県の事例のようにお蔵などに貴重な物が眠っているのではないかと思う。そのような物からアクションが起こせるのではないかと思った。また星もきれいな場所なので、星のイベントなども出来るのではないかと思う。清里では県営の駐車場で星のフェスティバルを行っているので、次は小淵沢で行いアクションを起こしてみるのも良いのではないかと感じた。

(委 員)

誰かきっかけとなる方がいないと、なかなか進んでいかないと感じた。

(委 員)

私はいろいろな会の役員をさせていただいており、この役職を生かして八ヶ岳観光圏の学習会を行おうと思い、昨年女性団体連絡協議会の方たち20名ほどバスで小淵沢駅から原村までの鉢巻リゾートバスのルートを参考に行ってきた。富士見町、原村のペンションの方は自分の庭をオープンガーデンにする取り組みをしているという情報があり、個人的に視察もしてきた。小淵沢にバスが戻ってくると、アウトレット、道の駅、やまとの所にフィオーレの方に向かうような案内があったが、リゾートバスのパンフレットにも残念ながらその他の案内が記載されていない。

そこで今回村上市の紹介を聞きながら、駅前の商店街でそのようなものを目玉にしてまちづくりをすれば良いのかということを考えていたが、観光協会ではやはり小淵沢のメインは馬という事でこれは他に譲れないので、何か馬に関しての特別なお土産品などもそうであるが、新しい駅の前に馬のモニュメントなど何か造ってはどうかという話があり200万円程度の基金をしている。それもどのような形になるか分からないが、昨日の観光協会の会議ではこれから進めていくという話も出た。

一つ聞きたいのが、この街並みのように3店変わればいろいろと変えることができるという話があったが、小淵沢の経営者の方は高齢化となっていることと、後継者がいないということも行き詰っているところであると感じている。やる気が起こる要素がないとなかなか進んで行かないと感じるが、いかがか。ただ街並みや景観的なことや商店街に住んでいる方たちの庭を上手く利用したオープンガ

ーデンなどからのまちづくりが出来ないかということや、皆さんから寄付をいただき基金を活用するという方法をとるなら魅力ある財源づくりなど、どのように進めれば皆さんが応援してくれるのかということも考えた。

また昨日案内所の方が、40分程度でどこか行けるところはありませんかという質問が案外多く、なかなか答えられないとのこと。身近なことで長期的なことではないが、このようなことからルートが出来るように皆さんで知恵を絞りだせば八ヶ岳観光圏を活かした駅前再生というものに取り組める可能性があるのではないかと考えている。

(会 長)

村上市の質問に対して回答するが、先ほど都市計画道路に関して商店街の中に賛成派、反対派があったと説明したが、それは世代の問題でもある。親の世代では都市計画道路を通して街を変化させた方が良く思っている中で、次の家業を継ぐ30から40代の世代の代表者の吉川さんがそれは違うと疑問を抱いた。ここに世代間の問題があると思う。計画のとおり道路を整備した方が新しいビルなどが建設され、新しい店舗が展開できるのではないかという希望を持った若い方もいた。ところが何か新しい物に期待するよりは、もともと自分たちが持っている財産、資産、宝物のようなものを大事にしようとする気持ちがイベントを実施するたびに大きくなっていった。そこから比較的若い方が、引っ張っていつている状況である。なにか小淵沢でも共通することがあるかもしれない。

何か若い世代のグループを組織化して、試しにやってみるという取り組み方を行い、一つでも二つでも成功事例を作っていくことが大切かもしれない。

(委 員)

私は、本日の議題の先進地という言葉の表現がよいのかと感じた。この言葉に洗脳されてしまうような意識になりかねないという気がしてしまう。

会長と東京藝大の説明について、いくつか整理をしておかなければならないと思う。一つはこのような会が開催されると、観光という議題に多くの時間を費やされる。しかし、そもそもこの地は全国でも人気のある地域であり、移住されて既に何十年も住んでいる方も多くいるということを軽視してはいけないと思う。

その中でこれからの将来のこの考え方にしても、会長の先ほどの説明のとおり地域の経験豊富な方たちの声の大きいことによって、地元の住民の知らない中で意思決定がされてしまうということがある気がしている。

いい例であると思ったことが、先日中堅若手のエジソンの会という会がいくつかの団体と長坂の地域委員会が協力し、これらの方とエジソンの会とフェイスブックなどによりつながりのある都市部の北杜市の出身の大学生や社会人2、3年の方との約40名程度で第1回目の話し合いをオオムラサキセンターで開催した。

その20代前半の男女の方たちは、都市部に出たことによって北杜市の自然景

観の本質が良く分かったということで、年に何度も帰ってきたり更には何とか将来の若者が暮らしやすい環境や多くの移住者に住んでもらえるような地域づくりをしていきたいと強く主張されていた。そのようなエネルギーから何が共通しているかと考えると、北杜市の大自然は世界に誇れるほどの資質を持っているわけで、山並みの稜線これを普遍的な稜線という言い方をするが、その稜線に多くの人間は本能的に引きつけられる。よってそこを壊すような景観づくりはいかかなものなのかということと、これからの北杜市の将来というのは住民の意思決定、例えば市民集会のような多くの方の意見を聴いて路線をひいていくべきだと先ほどの話を聞いていて強く思った。よって整理をして進めていただければと思う。

(会 長) 40人ほどの若い方の会というは何という名称なのか。

(委 員) 「笑顔の HATAKE」という会であり、この北杜市に笑顔を作っていきたいという思いという趣旨である。

(会 長) それは定期的を開催するのか。

(委 員) 次回は7月頃に、オオムラサキセンターでバーベキューをしながら懇親を深めるという話をしていた。

(会 長) では次の委員に意見等をお願いしたい。

(委 員) 毎回会議に出席しているが、大変難しいことであると感じている。この会のそれぞれの委員が何をどこまで携わって、どこまで引っ張って行って、どのような立場で会議の運営をやっていくべきなのかということを少し疑問に思っている状況である。確かに地域を見ると、いろいろな宝はたくさんありそうな気がする。また若いメンバーなどの集まりの中で、この土地柄を活かしていけるような方向性を見つけたいという意見、感想、要望等が出てくると思うが、それをくみ上げて組織だって何か成就していくということになると、この協議会だけでどうにかするのは困難ではないかと感じる。

また今の事例を聞く中で、地域と行政がうまく力を引き出しあいながら、街並みを変えていくという事は容易な事ではなかったのだろうと思う。今の時点で私たち委員が、どのようにして事業を組み立てていけるような力を出せるのかというヒントがなかなか出てこないと思っている。小さなことを積み上げながら少しずつやっていくという方法もあるだろうし、ある程度行政が方向性を示した中でそれに向かって何か組織づくりを行い実行できるような支援体制の中に私たち委員も入り進めていくなどのやり方の方向性を決めてもらえれば良いのではないかと思う。今の状況は、何に対してどのように支援、協力していけばよいのかということが定まっていけないというジレンマに陥っている感じがある。

そのようなことから、今後の会議の方向性や運営の方法を考えていかなければならないと思っている。

(会 長)

委員の皆様からの意見の中にもあったが、私もこの協議会の運営あるいは将来のビジョンを描くというは大変難しいと思っている。外から来ている私にとっては、北川原先生が駅舎と駅広を設計されるというきっかけをどれだけ地元の方たちが活かせるのかということであると思っている。活かす気がないのならば駅舎と駅広を整備して終わりとなってしまおうが、少しでも周辺にいい影響を与えるということは、先ほど委員からも話があったように40分でもいいから商店街などを歩いて欲しい又は駅もいいが小淵沢の街も良いと感じさせられるかどうかにかかっている。これは駅舎が完成するまで考えておかなければならず、駅舎が完成した後に考えるのは少し遅いと思う。よって先ほどの自立圏構想の中に駅舎及び駅広は当然入っていると思うが、駅周辺の徒歩圏の商店街を中心とする場所は現在あまり入っていないのでそこを活かした方が良いと皆が思っているのに一步を踏み出せない状況となっている。駅舎オープンまで1年少々あるが、あっという間に時間はたってしまう。

(委 員)

藝大との関わりは、この協議会と共に終了してしまうのか。

(会 長)

その議論は少し待っていただきたい。話をもとに戻すと、私としては来年度が最後の1年だと思っている。よって次の1年の間に出来ること又はやりたいことを整理して、駅舎がオープンするときに1つでも2つでも前と違ったと言われるようなイベントができ、その後につなげることが出来ればと思っている。今後は少しスピードアップして出来ることを見つけたいと思っている次第である。

先ほどの藝大の件についてお願いしたい。

(藝 大)

なかなか難しい議論ではあるが、日本あるいは世界でもうまくいく例は非常に少ない。皆さんも同様に、難しい中で苦しんでいるのが現状だと思われる。しかし難しいと言って終わってしまうのでは、藝大としてもそのようなわけにはいかないと思っており、会長も同様に次につなげていかなければと思っていると思う。先ほど小さな積み重ねという話もあったが、小さな積み重ねだけでは突破できない大きな壁もあるかと思うがその壁を突破する一つのアイデアを現在温めている。この後のワークショップの実施報告の中で説明するが、商店街の中で藝大と市民の方々と協力しイベントを行い、来年度に実施したいプロジェクトなども発表させていただきたい。小さな積み重ねについては、今後よりスピードアップして実施していきたいと思っているが、大きなイベントとして簡単に説明すると、先ほど事例紹介をした中で少し説明したが、芸術文化特区構想というものを考えている。これは全く公にすべき段階には至ってはいないが、この協議会の中でも

説明を行い、委員の皆様からの意見を聞く中でどのような方向に進めていくべきかを考えていきたいと思っている。芸術文化特区というのは、国家戦略特区や経済特区など最近は特区流行りであるが、そのほとんどが経済系や工業、化学、医療などの分野であり、例えば医療特区は、医療技術の革新的な開発などが優先的にかつ経済的な支援もあるというのが一般的である。しかし芸術文化に関しては海外では芸術文化特区は無く、日本では1970年代に富山県で芸術文化特区というものが国会で承認されている。ただ一般に特区というものが知られていない時代であり、建築基準法の一部緩和というような非常に小さな効果を狙ったものであった。内容としては、いろいろな民家を改造してみんなで舞台芸術を行うということで、建築基準法では木造の民家を劇場には使用できないという点を使用できるようにしたという小さな緩和であった。

今回藝大が考えている芸術文化特区というものは、藝大を含め芸術文化系の大学が文科省から指導を受けている中でグローバル戦略というものがあり、世界の芸術系の機関あるいは自治体と連携して社会と融合するような芸術文化を作っていこうというものである。背景としては都心の大学の多くが同じ状況であるが、藝大も非常に面積が狭く留学生もなかなか受け入れられない問題を抱えている。そのような中で長年の願いであるが、もっと広いフィールドで大規模な芸術活動ができるような機会を得たいと思っている。このような思いから大自然に恵まれ、縄文文化が根付き、一つの市で多くの美術館等を有し、音楽コンサート関係の活動も全国一ということで、既に市民の芸術文化活動が大変盛んである。先ほど委員から意見があったように、北杜市は何とかしようなど活性化を図らなくてももう十分ではないか、むしろたくさんの方が来て荒らされてしまったら美しい大自然が壊されてしまうという懸念があるくらいに恵まれている土地である。このような土地に何とか藝大や芸術系の大学と連携した芸術文化機関、フィールドキャンパス構想と呼ぶが、大学の共同利用機関や国際的な芸術活動ができるフィールドを自然を壊さずに自立圏の中で展開したいと考えている。自然を壊さないという意味で、現在私は国交省の公共建築協会の木造研究部会の部会長をやっているが、山梨県及び長野県の豊富な山林の資源、自然を健全に保つために行う間伐によって得られる間伐材がたくさんある。よってこの間伐材を使用して、共同利用機関を建てたいと考えている。これを木造特区構想と呼んでおり、木造であり巨大な建築をするには建築基準法及び消防法で多くの規制があることから、これを緩和していただき大規模な木造の施設を建設したいと考えている。

先ほど委員より今後の藝大のあり方について質問があったが、以上の説明のとおり駅舎及び駅広が完成した後も、今以上により深く関わっていきたいと思っている。

(会 長)

ありがとうございました。

話が多方面に広がってしまったが、私としては次回につながる意味でも各委員から意見を聞けたことは重要であったように思われる。

本日出された意見について事務局と協議を行い、次回整理を行った形で提示させていただきたい。また併せて、次回の参考となる昨年実施した議題2の親子体験工作 in ほくとの実施報告を藝大からお願いしたい。

【藝大より、親子体験工作 in ほくとの実施報告、今後実施予定のイベント等について説明を行う。】

(会 長)

報告等ありがとうございました。

11月のワークショップには、委員の中にも参加した方がいるようなので、参加した委員から一言感想等をお願いしたい。

(委 員)

「男女共生をすすめる会」として、帝京短大の前の広場で子育て支援の活動を5年ほど行っている。今回のイベントでは帝京短大の先生も非常に喜んでいて。また毎年1回行われており、子供が参加する「ほくと遊びの森を作る会」との交流もあるので、もし毎年イベントを続けていくのであれば早めに話し合いを行うことで今回以上に浸透して継続できるイベントになるのではないかと考えている。このこともあり、先ほど藝大との関係についても確認させていただいた。私は親子と芸術性の高い藝大のみなさんと交流を図ることを大変うれしく思っているため、ぜひ今後も継続していけたらと考えている。

(委 員)

あの時は行政の担当の方もいたが、普段とは立場が違うことから、ざっくばらんなコミュニケーションをとることができた。

今後は公のことを住民と行政で本質に沿った話し合いを行い、それはどちらの立場であっても意見が出たらその意見を聞くということであり、なんでも言われたことを聞けということでは多くの住民はやりたくてもやらないということが現実であると思われる。この会議も残り数回あると思うが、そのあたりのコミュニケーションのあり方を少し意識しながら話し合いを進めていければ良いと思う。

(委 員)

私も子供たちに野外活動などを教えているが、今回の藝大のように展開図がありただ貼り合わせるだけではなく、芸術的になっているところが素晴らしいと感じた。改善すべき点にも記載されているが、小淵沢の子供だけではなく他の子供

も来れるように周知をすべきであったと思う。またもっと分かりやすい場所で実施したら、子供も多く来たのではないかとも感じた。先ほどの委員からも意見があったが、どこまでここにいる委員が関わっていくべきなのか不明であるが、子どもたちと関わるイベントなどに呼びかけてもらえれば協力などをしていきたいと思っている。

(会 長)

ありがとうございました。

この芸・食・景観ワークショップの成果は大いに出たようで、次年度につなげていける印象を受けた。

では、事務局より第4回の推進協議会から、このワークショップの実施に至った経緯について補足説明等をお願いしたい。

(事務局)

第4回の推進協議会において、「ウォークラリー・拠点整備」と「子ども・次世代育成」の実施に向け、グループ分けした中で話し合いを進めていただいた。

しかし、「ウォークラリー・拠点整備」については、詳細な計画案をまとめることができない状況で前回の会議は終了した。

その後会長と協議を進める中で、「まずはできることをやり、継続に向けて進む」ということを目的に、「子ども・次世代育成」に関するワークショップを検討した結果、「まちづくり小淵沢」の小林さんに主催になっていただくとともに、小林千鶴子さん、東京藝大、帝京学園短期大学など多くの皆様に御協力を頂く中で、天候は悪かったが昨年11月14日に子どもの育成のための「親子工作体験のワークショップ」を開催することができた。

次年度以降においても、このようなワークショップが継続していければ良いと思っている。継続することが地域活性化に結びついていくと思う。また今回帝京学園とも関わりが持てたため、今後につなげられるのではないのかと思っている。

先ほど委員の方からも話があったが、今後の協議会の進め方については、この会がどのような方向に行くのか等については、来年度早々に事務局と会長と整理をする中で今後の方向性、進め方等について次回の協議会で説明が出来るようにさせていただく。事務局からの説明は以上である。

(会 長)

ありがとうございました。

先ほど事務局から説明があったように、昨年の4月に「子供」と「拠点整備」というキーワードで検討を進めた中で、各々を一つずつ実施する力がなかったことから二つを合体させ実施することとし、今回のイベントが出来たということである。ぜひ本日の各委員からの意見を踏まえながら、今後発展させるということを進めていきたい。次回の協議会は4月から5月頃に開催するというので、今

日の会議は閉めたいと思う。

ぜひ観光課の方も、今後の会議に出席できる範囲で出席していただけるとありがたい。

その他何かあるか。

(委員)

今後の委員会の流れが良く分からないが、冒頭でも話が出たが駅舎が完成してから活性化するのでは遅いのであり、地元の方のモチベーションを上げることを一定の期間の中で本質に沿った会議が出来るかどうかの基本であると思う。そのためにもコミュニケーションを深めながら多くの地域の方を巻き込んで、駅舎が開業と同時に活性化の動きが出来るように進めていかなければならないと思った。それから再度、私は別に先ほど観光客や移住の方が来てほしくないという話ではなく、要はここは観光の魅力がある場所と住んで魅力がある場所という二面を持っているわけで、観光というのは普段自分が住んでいるところではなく非現実なところを目指していきたいということが信義ということは分かるが、一方でここは素晴らしい山並みなどの景観や風景があり、それは不動であり普遍的であって安心感を求めて来られる方がいる。そのような要素が価値観として重要な部分があるため、それを壊すような話の事業展開や今も市内を歩くとだいぶ目立ったものが乱立している。それも来る方にいろいろな事を言われたり、ここに住んでいる方が出て行っている状況である。それが現実であるため、考慮する中でこの会議も慎重に進めていければ良いと思う。

(会長)

ありがとうございました。

その点も事務局と相談したいと思う。

それでは議長の任を降りる。

(事務局)

長時間にわたり、多くの意見等ありがとうございました。

確かに活性化は大変難しい問題であるが、委員の皆様と一体となって活性化に向けて進めていきたいと思っている。

以上をもって第5回小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会を閉会する。

閉会の言葉を、茅野副会長にお願いしたい。

(副会長)

駅舎のオープニングが迫ってきているので、何かそこに向けて披露できることが無いだろうか。身近な事でいえばコンサートや展示ができるスペースがあることから、そのようなことも考えられる。また先ほどの地下通路での子どもの作品が完成すれば、駅のオープニングが終了した後に見学することもできる。その他

何かないのかと考える中で、他から見ても文化活動が大変盛んである。55年間子供たちと文化活動を行ってきていることから、なにかそのような特徴が出てくると良いと思う。

先ほど委員から40分で行ける場所という話があったが、商店街の付近に立派な古民家があるため、その古民家に何か特徴付けられれば良いのではないかと。

その他焼き物をやっている方がいるため、商店街に数か所、大きな特徴的な焼き物を置くことも良いのではないかと。

また北川原先生からの芸術文化特区構想については、そのような構想が広がれば東京からも近い場所であるため大きな変化が出るのではないかと感じた。

ぜひ真剣に皆さんのアイデアをいただきながら、いい計画が出来たら良いと思っている。

本日は大変お忙しいところお疲れ様でした。

(事務局)

ありがとうございました。

では本日の協議会は終了とさせていただきます。

大変お疲れ様でした。

会議終了 16時20分